確認試験

① 本品0.05ｇ（0.045～0.054ｇ）に希塩酸４mLを加え、加温して溶かした溶液は、芳香族第一アミンの定性反応を呈する。ただし、溶液の色は、橙赤色を呈する。

② 本品0.02ｇ（0.015～0.024ｇ）を量り、水５mLを加え、かき混ぜながら１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液を滴加して溶かし、これに硫酸銅試液２～３滴を加えるとき、黄緑色の沈殿を生じる。

純度試験

① 溶状　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）に１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液５mLを加えて溶かし、更に水20mLを加えるとき、その溶液は、橙黄色で、澄明でなければならない。

② 融点　本品の融点は、244～247℃（分解）でなければならない。

③ 酸　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、水50mLを加え、70℃で５分間加温した後、室温まで急冷し、ろ過する。ろ液25mLにメチルレッド試液２滴及び0.1mol／Ｌ水酸化ナトリウム溶液0.50mLを加えるとき、溶液は、黄色を呈しなければならない。

④ 重金属　本品1.0ｇ（0.95～1.04ｇ）を量り、重金属試験法第２法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg／ｇ以下）。

乾燥減量　1.0％以下（１ｇ，105℃，４時間）

強熱残分　0.10％以下（１ｇ）

定量法　本品を乾燥し、その約0.5ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、氷酢酸75mL、塩酸８mL及び水25mLを加えて溶かす。これを15℃に冷却した後、砕氷25ｇ（24.5～25.4ｇ）を加え、かき混ぜながら0.1mol／Ｌ亜硝酸ナトリウム溶液で滴定する。この場合において、滴定の終点は、0.1mol／Ｌ亜硝酸ナトリウム溶液の滴加１分後に被滴定液をガラス棒に付け、その先端でヨウ化亜鉛デンプン紙に触れ、30秒以内に青色を呈するときとする。同様の方法で空試験を行い補正する。

0.1mol／Ｌ亜硝酸ナトリウム溶液１mL＝30.03mg$C_{14}H_{12}N_4O_2S$

(ｲ) 保存の方法の基準

a　アンプロリウム

アンプロリウム・エトパベート中のアンプロリウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

b　エトパベート

アンプロリウム・エトパベート中のエトパベート製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

c　スルファキノキサリン

遮光した密閉容器に保存すること。